

開化の叫び

帝キネ 時代映畫

原作並脚色者 巽龍吉
監督者 長尾史成
撮影者 塚越治

主要役割

財部香之進 松本田三郎
小此木潤之助 結城重三郎
近江屋お蝶 望月禮子
お香代 平塚泰子
権田彦藏 日ノ本一男
鎌倉主人 嵐寛十郎
解説——長尾史成氏の一直參八人組——に次ぐ作品である。

略筋——黒船渡來し、幕府内では墜退を主張する者、講和を勤むる者の兩派に別れ紛糾した。財部香之進は幕府側の弱腰を怒り、徳川の祿を喰む事を快くせず自ら浪人となつた。この香之進を慰めるのは近江屋のお蝶である。伊達さやうに烈しかった。だが財部を戀ふるのは彼女の意氣地の柳橋で男嫌ひで通つた彼女の戀は火のゆみでなく、彼の親友、しかし意見の相違の爲め袂を分つた小此木潤之助の妹お香代も又財部に灼熱の戀を寄せてゐた。ある夜財部は料亭からお蝶に送られて歸る途中、お蝶は何者かに凌はれた。追はんとする財部を遮つた武士は幕府の反省を促すべく決然起つた斬人舎の首領權田彦藏であつた。彼の口からお蝶が黒船の船長に見染められ、幕府はお蝶を彼の許へ送り、外交

の圓滑を計らうとした事を知つた。しかもその夜お蝶を奪つたのは小此木だつたと知り彼の血は逆上し、やぶれかぶれで斬人舎に組し、幕府を仆さう決心をした。數日後、お蝶が小此木の家にあると知り單身乗り込んだがお蝶はあらず香代が前に現れた。彼はお蝶の身代りに香代を奪つて引上げ、香代を責め虐んだ。彼の惱みの内に日は過ぎお蝶の黒船へ送られる日は來た。財部はそれを知り行列に斬り込んで警固の小此木を斬つた。小此木は虫の息で日本の國情を説き、お蝶の身で幕府のみか日本全體が救はれる事を語り、お蝶も國の爲め喜んでその決心をした事も判つた。彼ははじめて夢から覺め、死んで行く友に代りお蝶を黒船へ送るべく自ら駕籠をかついで黒船屯所へ向ふのであつた。



「開化の叫び」帝キネ長尾史成作品。右より望月禮子と松本田三郎。